

令和六年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

## 非公開

### 問題

次の言語的マイノリティーに関わるA、Bの文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

A

非公開

非公開

(庵功雄、『やさしい日本語―多文化共生社会へ』、岩波書店、二〇一六年、一三〇～一三五ページ、抜粋・一部改変)

非公開

B

（菊池聡、『〈超・多国籍学校〉は今日もにぎやか！』、岩波書店、二〇一八年、一五〇～一五三ページ、抜粋・一部改変）

問一 文章Aで述べられた「無標」と「有標」の概念について、本文以外の具体例を自ら考えて三〇〇字程度で説明しなさい。

問二 あなたが文章B傍線部「外国から来たばかりの友達」がいる学級の担任だとしたら、外国人と日本人の生徒の違いを認め合う学級を作るためにどのような手立てを講じますか。五〇〇字程度で述べなさい。

# 令和六年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

## 小 論 文

### 教育学部 学校教育教員養成課程

#### 小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

#### 出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持っているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

まず、これまで出題してきた近年の試験問題を振り返る。令和三年度は、いわゆる若者ことばの「ヤバイ」という語の表現と短歌を通じて、文化的な価値観について深く考えさせた。令和四年度には、体験に寄り添い思考力を育てることについての素材文を用意した。この教育学的知見に基づく文章を用いて、主に論理的な記述力を評価した。

本年度は、言語的マイノリティーに関する2種類の文章を用意した。1つは、言語学的な知見から聴覚障害者の問題に言及したものであり、もう一つは、近年急増している日本語を母語としない外国人児童についての内容である。問一では、言語学の「有標」「無標」という概念を本文に従って理解できたかという読解力をはかり、さらに理解した内容を自らの具体例を用いて説明させることで、論理的な記述力をはかるものである。問二においては、外国人児童がいる教室の学級担任だとしたら、どのような手立てが考えられるのか、言語的マイノリティーを意識した上で、どのようにイメージできるか、国語教育的な構想力も含めて記述力を問いたい。

この入学試験問題を用いることにより、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッション・ポリシーにおける「一 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「二 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかについても確認したい。